
ビュリタンの驢馬

鶴本明久 (鶴見大学予防歯科学講座 教授)

深井 編集長殿

研究論文の投稿をお引き受けしておきながら、心の余裕が維持できず約束を守れなかったことをまずお詫びさせて下さい。そこでお手紙の形で最近気になっていることなどを思いつくままに書かせて頂きます。

私たちは「健康」が取り持つ縁で多くのことを共に考えてきたと思うのですが、現在のところは「ヘルスプロモーション」という Key Word の世界に居ると思います。それはそれなりに正しい判断というか選択だと確信しております。しかし、このところ気になることは一体私達は何をしようとしているのか、つまり具体的な目標が見えなくなっているように思えることです。最近「ビュリタン (14世紀の哲学者だそうです) の驢馬」という面白い話を聞きました。それは、死にそうなくらい空腹だった驢馬が幸運にも乾し草の山を見つけたのですが、乾し草の山は二つあり、しかも大きさ、形、山までの距離も全く同じ条件だったので、それぞれの山が気になって最後まで選択できずに二つの乾し草の山の真ん中で翌日餓死していたと

いうお話しです。どちらでも良いような「健康」という乾し草の二つの山があって、こっちの山には「EBM」の味がしみて美味いぞ、いやこっちには「質的研究」が含まれていて体に良いぞ、やれ「ポピュレーションストラテジー」だ、「NBM」だ、「SGL」だなどと、やたらと乾し草の山に色を付けられて私も迷っているような気がします。そのうちに驢馬のように二つの乾し草の山の間で餓死しているかもしれません。私らしいつまらないことを書きました。こんな事を考えてしまうのも、「ヘルスプロモーション」を実践しているという現場がなく、大学の机に座り学生の成績表ばかり見ているような生活を送っているからかもしれません。

結構、たくさんの言葉を発信されている深井編集長ですが、今月 (2002年12月) の「歯科衛生士」を読ませて頂いても、しっかりと臨床現場から「NBM」を提言されているので私のように驢馬状態にはなっておられないので安心しております。と言うことで今後とも宜しくお願い申し上げます。